

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
宮崎ペットワールド専門学校	平成15年8月1日	坂元 祥彦	〒880-0801 宮崎市老松1丁目3番5号 (電話)0985-22-3100																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 宮崎総合学院	昭和61年2月27日	川越 宏樹	〒880-0802 宮崎市別府町4番19号 (電話)0985-22-0658																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化教養関係専門課程	動物健康管理学科(動物園・水族館・ドッグインストラクターコース)	平成25年 文部科学省告示 第133号	-----																							
学科の目的	動物行動学に基づいたトレーニング技術を磨き、動物園や水族館の飼育員や各種訓練施設等、動物病院やペットショップなど幅広く活躍できる人材を育成する。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
	2年	65単位	29単位	8単位	28単位	---	---																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
40人	24人	0人	10人	6人	16人																						
学期制度	■2学期制 前期:4月1日～9月30日 後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価は、前期と後期の定期試験、日常の確認テスト、提出物、出席状況等で評価する。成績評価は、優、良、可、不可の4段階とする。なお、科目終了時に科目の出席率を集計し80%以上の出席率が無いものは考査の対象とはならない。																						
長期休み	■学年始:4月1日入学、始業式 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月1日～3月31日		卒業・進級条件		■本校所定の教育課程を履修して、科目ごとに指定の単位を習得していること。卒業までに65単位取得のこと。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ・担任制により、個別相談・支援を実施・学生相談室の設置・産業カウンセラーによる心の相談室の設置		課外活動		■課外活動の種類 ・宮崎福祉祭りボランティア・大樹祭(学園祭)学生実行委員会 ・大淀川クリーンボランティア ・宮崎動物愛護センター犬猫譲渡会ボランティア ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 動物園・牧場・ペットショップ・動物病院・ブリーダー等		主な学修成果(資格・検定等)※3		<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士2級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション初級</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>秘書検定3級</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>全動専トリマー検定3級</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>18人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	愛玩動物飼養管理士2級	③	12人	11人	コミュニケーション初級	③	10人	9人	秘書検定3級	③	18人	13人	全動専トリマー検定3級	③	18人	18人
	資格・検定名	種						受験者数	合格者数																		
愛玩動物飼養管理士2級	③	12人	11人																								
コミュニケーション初級	③	10人	9人																								
秘書検定3級	③	18人	13人																								
全動専トリマー検定3級	③	18人	18人																								
■就職指導内容 ・平成28年12月8日1年生対象就職セミナーの実施(守秘義務、個人情報保護法、面接試験等)・平成30年5月11日～12日青島青少年自然の家にて就職実践合宿実施(人間力強化がテーマ)・平成30年5月26日保護者対象就職説明会の実施(就職指導の報告、個別ガイダンスの実施)。 ■卒業者数 : 18 人 ■就職希望者数 : 18 人 ■就職者数 : 17 人 ■就職率 : 94.4 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 94.4 % ■その他 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																									
中途退学の現状	■中途退学者 3名 平成29年4月1日時点において、在学者31名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者28名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更(他の専門学校)の為1名・就職(犬の訓練所)の為1名・学習意欲がなくなった為1名 計3名 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリングの実施(精神疾患の学生は心理カウンセラーによるカウンセリングの実施)再入学・転科の実施		■中退率 9.6 %																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: ④・無 ・試験による特別奨学生制度・遠隔地援助制度・ファミリー紹介制度・トリム入試制度・分割納入延納制度・オリコ教育ローン ■専門実践教育訓練給付: ④・無(給付対象・非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数0名																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ④・無 ※ISO29990(学習サービス認証)認証登録事業者:JMT-LS160003A (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	http://www.pet-animal.ac.jp/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者であり、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱わず)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成においては、動物看護師の制度変更、業界専門性の動向、クライアントニーズ等の把握や、看護実務や飼育実務における知識、技術、技能、資質について広く意見を徴収する目的で、特に地元獣医師会、臨床獣医師、動物園関係者等により、教育課程編成委員会を編成し、業界関係者の意見を反映しながら、カリキュラム、シラバス、授業改善、実習精度の向上を図る方針である。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、宮崎ペットワールド専門学校のカリキュラム・シラバス編成や授業改善、実習企業との連携等、学生の支援に対する助言・提言を行う。徴収された意見を基に、実際の編成作業を各担当教員が行い校内で開催される「カリキュラム編成委員会」にて協議を経た後に正式に決定される。カリキュラム編成委員会を経て決定されたカリキュラム等を2回目の教育課程編成委員会にて報告を行い、再度意見の徴収を行うとともに、次年度の課題点等について協議を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
足利忠敬	一般社団法人宮崎県獣医師会 会長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
出口智久	宮崎市フェニックス自然動物園 園長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
宮元邦夫	ペットサロン 都城ケンネル オーナー	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
坂元祥彦	宮崎ペットワールド専門学校 校長		
楠田 晃	宮崎ペットワールド専門学校 教務課長		
若松あゆみ	宮崎ペットワールド専門学校 動物看護師学科		
川畑綾野	宮崎ペットワールド専門学校 動物健康管理学科		
改井宣隆	宮崎ペットワールド専門学校 動物健康管理学科		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月と3月)

(開催日時(実績))

第1回 平成29年9月25日 14:00～15:00実施済み

第2回 平成30年3月30日 14:00～15:00実施済み

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回:動物の福祉について授業へのウェイトについて又、動物の福祉と愛護の関係についてどう扱うか?動物看護師学科は、コアカリキュラムの中に、動物福祉論があり又、飼育コースも動物の福祉論を学ぶ。美容コースについては、JKC協力機関としてのカリキュラムを優先している為、動物の福祉に関する授業は無いが、実習前の座学で実習犬の取り扱い等を参考に動物福祉に類する内容を網羅する形で取り入れていきたい。学校として動物の福祉についてどう格付けをして取り扱うかが課題。ペットサロンにおける飼い主からの立場の視点に立てば、動物福祉＝安全性＝信頼性にもつながる事から、重要な観点である事を学生にも重点的に指導を行うことを留意したい。

第2回:新設された宮崎動物愛護センターとの職業体験実習を導入し、カリキュラムに反映してほしい⇒愛護センターは、動物達の危機管理や災害時の救済目的の為に、県と市の両者が設立。行政自体、動物達の飼育管理や運営管理、人材配置、動物診療等がまだキチンと整備されていない。安全面やソフト面の構築が整備されてから実習を導入する予定。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

校内の実習・演習で取得した知識や技術を各施設や現場で活用し実践力を養成しつつ、トレーナーが業務を遂行する上で、必要となる知識や技術の実状を把握し、要求される能力を見極め、今後の学習において、自己課題を設定する機会とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

春季・夏季インターンシップ実習(職場体験実習教育):自分の将来に関連のある就業体験を行う為に、企業の状況を説明し、学生の希望をヒヤリングを行なった後、実際に企業へ行き就労のマッチングを行なう。受け入れを承諾した企業と職場体験実習教育協定を締結し実習生の指導や助言、実習ノートの確認や添削、学生の実習評価をいただく。又、担当教員が巡回指導の際には経過報告、課題等のコメントを頂き学生の教育課題発見の場としている。実習日誌内の企業評価表を参考に校内での「実習評価委員会」にて勤怠結果、実習日誌の内容、企業評価、取り組む姿勢を考慮しながら最終的な実習評価を決定している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
しつけトレーニング 実習Ⅱ	事前指導として犬猫の殺処分率や保護犬、保護猫の譲渡の必要性を理解させる。その中で核となる重要な役割を機能しているのが「動物愛護センター」である。譲渡において特に必要とされるのが「犬のしつけ」である。1年次は、校内にてしつけトレーニングを学び2年次に「動物愛護センター」の研修場にて譲渡候補犬のお世話とトレーニングを行い自己点検をして、技法が良好であれば継続し、改善点があれば修正を行なう。トレーニングの最終点検を行い、担当犬の課題や仕上がり具合を担当者へ報告する。又、担当者は、学生の評価について助言、アドバイスを加え評価を行う。	宮崎県動物愛護センター
夏季インターンシップ	2年次の夏に実施。校内の実習や演習で習得した知識や技術を各施設や現場で活用し、実践力を養成しつつ、動物飼育担当者が業務を遂行する上で必要となる知識や技術の実状を把握し、要求される能力を見極め、今後の学習において、自己の課題を設定する機会とする。	パラダイスクイーン犬舎
夏季インターンシップ	2年次の夏に実施。校内の実習や演習で習得した知識や技術を各施設や現場で活用し、実践力を養成しつつ、動物飼育担当者が業務を遂行する上で必要となる知識や技術の実状を把握し、要求される能力を見極め、今後の学習において、自己の課題を設定する機会とする。	ペットフレンドぱぴとすず
春季インターンシップ	1年次の春に実施。しつけトレーニングについては、基本的に室内犬の飼い方やしつけ方を学び、飼い主さんへ訓練の仕方等説明が出来るようにする。そして、動物園やペットショップ、訓練所やブリーダーでの実習を通じて多種動物の生体環境や飼育管理を学ぶ。又、社内用語や接客用語等の礼儀作法を身につけ、さらにスタッフの方や接客を通じてお客様とのコミュニケーションも学ぶ。	あいドック
春季インターンシップ	1年次の春に実施。しつけトレーニングについては、基本的に室内犬の飼い方やしつけ方を学び、飼い主さんへ訓練の仕方等説明が出来るようにする。そして、動物園やペットショップ、訓練所やブリーダーでの実習を通じて多種動物の生体環境や飼育管理を学ぶ。又、社内用語や接客用語等の礼儀作法を身につけ、さらにスタッフの方や接客を通じてお客様とのコミュニケーションも学ぶ。	木村警察犬訓練所
学外施設見学	校外の動物飼養施設を見学し、動物の観察、施設、飼養方法等について学ぶ。	鹿児島市平川動物公園

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

多様な実践教育を通じて、産まれてきた本校の教育成果を着実に引き継ぎ、一層発展させていく為には、教職員が共に学び合い、意識を高めあう、組織的な人材育成を図る必要がある。その為には、学校長が、学校評価や教職員評価を活用しながら、本校や個々の教職員の課題を明確にし、学校目標の達成へ向け、組織力を活かした校内での研修の充実と改善に取り組み、個々の教員の課題に応じた、継続的な研修を推進することが重要である。学校法人宮崎総合学院 職員の研修に関する規定第3条3により「校長は、職員に企業、他の研修機関、学校その他の機関に委託して研修を行わせるものとする。」とあることから、本校では、「専門的な教育課題に対応する研修」と「授業力向上へ向けた研修」を目的に、専門知識・技術の維持向上及び教員必要要件資格を取得し、さらに各種業界団体の委員会所属という点と、教員資質(授業力向上、学生指導力、就職指導力、保護者対応力)向上という二点に絞り、企業・業界と連携を図りながら、教員研修を計画的に推進する方針である。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「平成29年度宮崎県介助犬・聴導犬普及キャンペーン」 連携企業等：九州補助犬協会・宮崎市・宮崎県
期間：平成30年2月28日(水) 対象者：改井宣隆(飼育系教員)・下園武志(飼育系教員)

内容：宮崎県内の障がい者へ対し、補助犬の役割や利用方法についての啓発活動を通じて理解度を高める。又、啓発セミナーを通じて身体障がい者補助犬法を改めて学んだ。

研修名「テリントンTタッチ」 連携企業等：此村玉紀氏(テリントンTタッチP2資格認定)みやざきサポートワンの会

期間:平成30年6月11日(月) 対象者:改井宣隆(飼育系教員)・下園武志(飼育系教員)

内容:犬や馬等に行うマッサージの一種で、マッサージを通じて動物たちのストレスを軽減させリラックス効果を与えることができる。動物たちとの絆を深めるテリントンタッチを学びしつけトレーナーとしてのクオリティーを高める。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「アクティブラーニングについて」 連携企業等:西山正三氏(日本化学会九州支部幹事)

期間:平成29年8月10日(木) 対象者:改井宣隆(飼育系教員)・下園武志(飼育系教員)

内容:一方的な講義で学ぶのではなく、学生たちが主体的に仲間と協力しながら課題等を解決していく学習方法を学び授業に活用する。キーワードは、コンピテンシーとマインドのセット。

研修名「研究授業・前期」 連携企業等:宮崎総合学院グループ教務推進部

期間:平成30年9月7日(金) 対象者:下園武志(飼育系教員)

内容:「動物行動学」の科目を研究授業のテーマとして行った。教務推進部のメンバーが授業内容の評価を行い、これを基に授業研究会を開き良かった点や改善点を本人へフィードバックする。内容としては、授業展開時に終始手元に教材があり安定感に乏しいので改善をしてほしい、論点をグループワークで思考させ、そしてまとめさせて発表させるという要素が完結してよかった。とのコメント等があった。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「平成30年度宮崎県介助犬・聴導犬普及キャンペーン」 連携企業等:九州補助犬協会・宮崎市・宮崎県

期間:平成31年2月予定 対象者:改井宣隆(飼育系教員)・下園武志(飼育系教員)

内容:宮崎県内の障がい者へ対し、補助犬の役割や利用方法についての啓発活動を通じてさらに理解度を高める。又、具体的に介助犬や盲導犬の訓練方法、役割や利用方法について詳しく学ぶ。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「T(捕獲)N(不妊手術)R(元の場所に戻す)活動」連携企業等:NPO法人犬猫みなしご救援隊・一般社団法人全国野良猫対策連合会

期間:平成30年10月25日(木) 対象者:改井宣隆(飼育系教員)

内容:宮崎県に生息する飼い主のいない猫たちの為に一緒に捕獲してTNR活動を行い動物の福祉を学ぶ。又、啓発活動を行うことにより猫のさつ処分を減らし命の大切さを学ぶ。

研修名「研究授業・後期」連携企業等:宮崎総合学院グループ教務推進部

期間:平成30年12月7日(火) 対象者:下園武志(飼育系教員)

内容:「動物行動学」の科目を研究授業のテーマとして行った。教務推進部のメンバーが授業内容の評価を行い、これを基に授業研究会を開き良かった点や改善点を本人へフィードバックする。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価については、教育・訓練の国際同等化、職業教育の国際規格化において国際通用性を確保した国際標準ISO29990を活用した自己点検・評価を実施しております。平成30年3月15日に内部監査を行い同年3月19日にマネジメントレビューを3月22日では、宮崎総合学院キックオフミーティングにおいて年次報告及び次年度事業計画を発表しております。同年3月30日に学校関係者評価委員会を実施し開催の前に各委員の皆様方へは、事前に自己点検評価・チェックリストを郵送し内容を確認して頂きました。委員会当日は、宮崎県獣医師会会長様、動物園の園長先生、ペットサロンオーナー、卒業生、保護者代表等利害関係者から、本校の教育活動や学校運営に関してのご意見、ご提言をいただき、今後の学校運営や評価のあり方について、より良い改善を図ってきました。今後も、業界、地域、学生のニーズに応えられる学校運営を目指すことを基本方針と致します。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念、教育目的、育成人材像、職業教育の特色、将来の構造
(2)学校運営	運営方針、教育方針、コンプライアンス体制、教育活動の情報公開
(3)教育活動	教育内容、教育体制、キャリア教育、リメディアル教育、授業評価
(4)学修成果	教育目標の達成と学修成果の評価、卒業後のキャリア形成の効果
(5)学生支援	進路・就職の支援体制・経済面での支援体制・社会人学生への教育
(6)教育環境	教育環境の整備、教育訓練や安全管理、防災・学外実習の教育体制
(7)学生の受入れ募集	募集活動の適正、入学要件の明示、学費・授業料・学習教材の明示
(8)財務	年度予算、財務情報の開示
(9)法令等の遵守	各種規定の文書化、文書決裁の徹底化
(10)社会貢献・地域貢献	教育資源や施設の社会貢献、ボランティア活動、公開講座や教育訓
(11)国際交流	該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

第1回の学校関係者評価委員会の評価結果を経ての主な活用状況及び方向性は、次の通りである。・就職先のトリミングカットについて最近では、スピードトリミングのカットのニーズが高い、現場でも特にワンちゃんに負担をかけないカット、スピードトリミングのニーズが要求されている。これを踏まえ今後の実習指導においてはカットのタイムスケジュール表を下にスピードカットを意識させている。・過去2年間分の就職状況の実績と発達障がい者(精神統合失調症と躁鬱2極性障がい者)の就職指導の実態と課題及び対応についての説明を行った。各委員の方から貴重なご意見、ご声援を頂戴した。広汎性の発達障がい多く、対人間に対するコミュニケーション力は様々である。色々な気質の学生も存在し個性に合わせて適職を探してあげるしかない。現在でも就職に対しては、卒業後も就職担当者がワンツーマンにて手厚くコーチングをしているがさらに障がい者就職支援センター等も活用して障がい者へマッチした就職先をバックアップして行く。・動物系専門学校分野別体系の趣旨と評価算定について各評価委員及び教員より自己点検(看護分野)に対するご意見やご指導をいただいた。分野別評価における自己点検・評価は、機関別のISO版とは、別立てした動物看護師統一機構コアカリキュラムに準じて作成した評価項目である。分野別自己点検・評価項目に係る達成状況に関する具体的な意見、学校へ対する要望等と活用状況は、次のとおりであり主なものとして2点掲記致します。①動物看護師実習の環境整備及び動物の飼育数について⇒医療機器については、陳腐化により常に新しい機械への買い替えが必要である。しかし経営的な面により厳しい面があり、定期点検の実施や保守契約等で常に使用可能な状態を保持しつつ更新に努めたい。⇒平成30年3月稟議の上、決裁がおり購入が可能となった。②ペットサロンのオーナーからは、インターン実習において学生を受け入れているが最近の実習生は、少し情に欠けている学生が見られる。カットがきれいに出来たらいいだけでなく動物達に対して情を持って接して欲しい。⇒学内実習にて改めて人間と同じ命を預かってカットしていることと飼い主の気持ち、犬の気持ちになって実習へ挑むよう指導をしていく。昨年、動物看護分野別評価における自己点検・評価を受査し無事に合格し受験校として認定を受けたが動物看護系教員数不足についての指摘を受けた。動物看護系教員増員に関しては、法人上層部に報告し、稟議を上げ求人募集を行なった。平成30年4月1日より動物看護師教員1名の採用が決まり指摘点が改正された。今後も、継続して自己点検・評価を実施し、第三者評価委員会をホームページ上で公表をして質の保証を図って行きたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
足利 忠敬	一般社団法人宮崎県獣医師会 会長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界関係者委員
出口 智久	宮崎市フェニックス自然動物園 園長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	企業等委員
坂元菜生美	ペットサロン チャーミー オーナー	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	企業等委員
園田奈津美	第3期卒業生(オザキケネル社員)	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	卒業生
海田 厚子	在校生保護者代表	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

http://www.pet-animal.ac.jp 宮崎ペットワールド専門学校HPトップページ 学校の概要 学校評価
 公表時期:平成30年3月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

今後とも、本校のホームページを充実するとともに情報提供を積極的に行い、学校関係者の理解や評価をいただきながら、「事業所等と連携し、適切な職業教育の充実」に資することを目標に、社会に対する説明責任、職業実践教育のさらなる質の向上を図っていくこととする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標、育成人材像、法人運営、学校運営(職業実践専門課)
(2)各学科等の教育	カリキュラム、教育の方法、教育の評価、成績評価、学習成果、資格
(3)教職員	教職員組織、校務事務分掌、各種委員会組織 各部署の連携
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業連携実習要項、実習施設、実習計画
(5)様々な教育活動・教育環境	年間行事、施設設備・機材・備品管理、
(6)学生の生活支援	学生相談室、進路・就職支援、経済支援、健康管理、中途退学対策、
(7)学生納付金・修学支援	納付金の額・納入時期、特別奨学生、ファミリー紹介制度、学費支援制
(8)学校の財務	資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、監査、財務等の公開
(9)学校評価	自己点検評価、内部監査体制、学校関係者評価、第三者評価
(10)国際連携の状況	ボランティア活動、公開講座、教育資源の還元
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: http://www.pet-animal.ac.jp/ 宮崎ペットワールド専門学校HPのトップページ 学校の概要 学校評価

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 動物健康管理学科) 平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物の世話と管理	動物の観察、摂取カロリーや栄養バランス、安全な散歩のテクニックなど「管理する世話」を学ぶ。	1	105	3	○		△	○		○		
○			飼養管理士総論	公益社団法人 日本愛玩動物協会主催の「愛玩動物飼養管理士2級」の資格取得を目的とし知識を習得する。	1	30	1	○			○		○		
○			動物行動学	犬と猫について、それぞれの行動を比較しながら、何故その行動を取るようになったかを学習する。	1前	15	1	○			○		○		
○			人と動物の関係学	伴侶動物やそれ以外の動物達と人間との係わりを学ぶ。	1	30	1	○			○		○		
○			寄生虫学	動物や人に感染する恐れのある寄生虫について、感染経路と病害を中心に学習する。	1	30	1	○			○			○	
○			解剖生理学	動物の体の構造や機能に関する知識の習得を目指す。	1	60	2	○			○		○		
○			公衆衛生学	家庭動物の医療ならびに飼育・衛生指導を通じ、動物と人への感染症の予防と対応を学ぶ。	1	60	2	○			○			○	
○			グルーミング理論Ⅰ	動物病院やペットショップでも戦力になるよう基本の手入れができるように、犬の扱いやグルーミング道具の扱いなどの基礎を学ぶ。	1前	15	1	○			○		○		
○			栄養学	栄養素や消化器の構造を知り、ペットフード給与での栄養管理ができるような知識を習得する。	1	30	1	○			○		○		
○			動物園総論・生物学Ⅰ	動物園が目指すべき「環境教育施設」、「種保存施設」および「野生動物研究施設」としての役割やポリシーについて考える。	1	60	2	○			○		○		
○			グルーミング実習Ⅰ	爪、耳の手入れ、肛門腺の処理、バリカンの作業 ペイジング（シャンプー）技術を習得する。	1	180	4			○	○		○		
○			しつけ・トレーニング演習Ⅰ	基礎的な犬のしつけやトレーニング方法について学ぶ。	1	45	1	○			○		○		

○		しつけ・トレーニング実習Ⅰ	基礎的な犬のしつけやトレーニング方法について技術を習得する。	1	90	2			○	○		○		
○		学外施設見学	校外の動物飼養施設を見学し、動物の観察、施設、飼養方法等について学ぶ。	1前	15	1	○		△			○	○	○
○		春季インターンシップ実習	職場体験実習教育を通して、自己課題の発見に努める。	1	90	2			○			○		○
○		就職実務Ⅰ	就職及び社会人としての健全な人格形成を目指す。就職に対する意欲が定着する事により自分の夢や目標を実現させる力を培う。	1	30	1	○	△				○		○
○		コミュニケーションⅠ	サービス業の基本となるコミュニケーション能力を、講義だけでなくワークショップ等、取り入れながら実践を学ぶ。	1	45	2	○					○		○
○		ビジネスマナー	一般知識や職務知識、技能やマナー接遇（言葉遣い、話し方、態度、振る舞い）人柄の要素について学ぶ。	1	60	2	○	△				○		○
○		コンピュータ演習Ⅰ	基本的な文書作成や表計算、グラフ作成などを習得する。	1	60	2	○	△				○		○
○		ロングホームルーム	学生同士に話し合いをさせることでクラスの団結を高める。	1前	15	1	○					○		○
○		トレーニング特別授業	しつけ教室を実践する場合の、飼い主さんとの接し方、心構え等の講義の後、実際のしつけ教室を再現し、レッスンにあたる。	1・2前	30	2	○		△			○		○
○		動物関係法規	「動物の愛護及び管理に関する法律」「狂犬病予防法」「身体障害者補助犬法」「愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律」を学ぶ。	2前	15	1	○					○		○
○		動物の病気	動物病院でよく遭遇する犬と猫の病気について、原因、症状、診断、予防、治療について理解する。	2	30	1	○					○		○
○		グルーミング理論Ⅱ	皮膚や被毛の知識、シャンプー剤の知識、実習中に起こりうる事故について、などグルーミングするにあたって必要な事柄を学習する。	2前	15	1	○					○		○
○		エキゾチックアニマル	エキゾチック動物を飼っている人に適切な飼育指ができるような知識を身につける。	2	30	1	○					○		○
○		プレゼンテーション	在学中に学んだ内容を基にテーマを決め、研究・検証を行い、結果をまとめて考察し、発表する。	2	45	1	△	○				○		○
○		動物園総論・生物学Ⅱ	動物園が目指すべき「環境教育施設」、「種保存施設」および「野生動物研究施設」としての役割やポリシーについて考える。	2	60	2	○					○		○

○	動物看護実習	基本的な器具・用具の説明から消毒・滅菌、診察や手術の補助的作業を実習する。	2	90	2			○	○	○	○		
○	造形実習	コーム、シザーの使い方を練習すると共に、ドッグマネキンをカットすることにより、実際のカットのイメージをつかむ。	2	90	2			○	○	○			
○	グルーミング実習Ⅱ	全国動物専門学校協会トリマー3級取得を目標に実習を行う。	2	180	4			○	○	○			
○	しつけトレーニング演習Ⅱ	犬の性質等を考慮したトレーニングプログラム、ゲームプログラムの作成など、より実践的な内容を体得する。	2	60	2		○	○	○				
○	しつけトレーニング実習Ⅱ	しつけインストラクターとして必要な知識の習得とトレーニング技術の向上を目指し、ひまわりの家での実践的なトレーニングを行う。	2	150	3			○	○	○			○
○	夏季インターンシップ実習	職場体験実習教育を通して、自己課題の発見に努める。	2	90	2			○	○				○
○	ビジネス実務Ⅱ	面接指導を通じて就職内定を目指し、電話対応や接客用語、挨拶や言葉遣い等の指導を行い社会人基礎力を培う。	2	60	2	○		○	○				
○	コミュニケーションⅡ	サービス業の基本となるコミュニケーション能力を、講義だけでなくワークショップ等、取り入れながら実践を学ぶ。	2	30	2	○		○	○				
○	サービス接遇	動物病院での飼い主さんとの対応に必要な接遇の知識と技術を習得する。	2	60	2	○		○					○
○	電卓実務	販売業務、会計業務において必要な電卓の技術を習得する。	2	60	2	○		○	○				
○	コンピュータ演習Ⅱ	基本的な文書作成や表計算、グラフ作成などを習得する。	2	60	2	○	△	○					○
合計			38 科目			2130 単位時間 (65 単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1. 本校所定の科目を履修し所定の単位を修得する事。 動物園・水族館・ドッグインストラクターコースは65単位		1学年の学期区分	2期
2. 単位認定は単位認定評価委員会にて決定する。その際に取得検定については評価の要素とする。		1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。